

第9期認知症施策 取組報告



令和6年11月28日
第3回高齢者福祉推進協議会

目次

はじめに

国の動向について
(認知症施策推進大綱・認知症基本法について)

調布市版地域包括ケアシステムにおける
認知症施策の位置づけ

認知症施策の 取り組み報告

認知症の正しい知識の普及啓発
(認知症サポーター養成講座・認知症サポート月間)

早期の支援・相談
(認知症地域支援推進員の役割・もの忘れ予防検診)

認知症当事者の意見・意思に基づくまちづくりの推進

地域で支える仕組みづくり
(調布市版チームオレンジ・認知症徘徊高齢者探知システム・地域声掛け訓練)

2019年 認知症施策推進大綱

2025年, 国民の5人に1人が後期高齢者(75歳以上)という超高齢化社会を迎える。

→ 高齢者の5人に1人が認知症になると推計されている。

認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく, 認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。

2024年1月1日 認知症基本法 施行

法律の目的

認知症の人が尊厳を持ち、希望を持って暮らすことができるよう、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=**共生社会**)の実現を推進する。



2024年1月1日 認知症基本法 施行

7つの基本理念【第1章 第3条】

- ①本人の意向尊重
- ②国民の理解による共生社会の実現
- ③社会活動参加の機会確保
- ④切れ目ない保健医療・
福祉サービスの提供
- ⑤本人家族等への支援
- ⑥予防・リハビリテーション等の
研究開発推進
- ⑦関連分野の総合的な取り組み



基本的施策【第3章 第14～25条】

- ①国民の理解の増進等
- ②バリアフリー化の推進
- ③社会参加の機会の確保等
- ④意思決定支援及び権利擁護
- ⑤保健医療・福祉サービスの
提供体制の整備等
- ⑥相談体制の整備等
- ⑦研究等の推進等
- ⑧認知症の予防等

2024年1月1日 認知症基本法 施行

図1-2-2-5 認知症及びMCIの高齢者数と有病率の将来推計



資料：「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」（令和5年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）：九州大学大学院医学研究院二宮治教授）より内閣府作成。（令和6年5月8日（水）に開催された認知症施策推進関係者会議（第2回）の配布資料より）

（注1）MCI：軽度認知障害

（注2）2022年の4地域（久山町、中島町、中山町、海士町）から得られた認知症及びMCIの性年齢階級別有病率が2025年以降も一定と仮定して推計した。

（注3）2025年以降の性年齢5歳階級別人口分布の出典：国立社会保障・人口問題研究所、日本の将来推計人口：性年齢5歳階級別人口分布・出生中位（死亡中位）推計

MCI:軽度認知障害。
同じ年代の人と比べて認知機能が低下しているが、日常生活を基本的に正常に送ることができる状態。

内閣府作成
令和6年版
高齢社会白書より引用



第9期計画における「認知症施策の推進」の位置付け

重点施策

(1) 介護予防の取組

(2) 医療と介護の連携強化

(3) 認知症施策の推進

(4) ケアラー（介護者）支援

(5) 住環境の整備



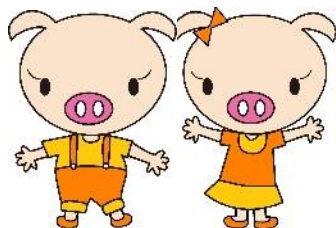
第9期の取組

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

(2) 早期の支援・相談

(3) 認知症当事者の意見・意思に基づく
まちづくりの推進

(4) 地域で支える仕組みづくり



(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○認知症サポーター養成講座

認知症に関する正しい知識・理解を深めることを目的に実施

高齢者総合計画における指標	令和4年度	令和5年度	目標値
認知症サポーター養成講座 受講者数	13,891	15,415	16,000

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○認知症サポーター養成講座

認知症に関する正しい知識・理解を深めることを目的に実施

	サポーター養成 講座開催回数	サポーター 養成人数	サポーター養成数 累計人数		ステップアップ講座 (養成講座後)
令和3年度	54	1,332	12,832	令和3年度	41
令和4年度	35	1,059	13,891	令和4年度	41
令和5年度	41	1,524	15,415	令和5年度	72
計 (回/人)	440	15,415		計(人)	1,547

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○調布市認知症サポート月間の取り組み

認知症にやさしいまち♡ちょうふ

調布市認知症サポート月間

9月は認知症サポート月間です。
期間中は認知症に関するイベントを実施しています。
ぜひ足を運んでみてください。

認知症シンポジウム
認知症になっても安心なまち調布
～ともに生きていけるまちづくり～

日時 9/6(金) 10:30～14:30
場所 文化会館たづくり12階 大会議場

第一部(10:30～11:45) 基調講演「認知症と心のゆらぎ」
講師：青木病院認知症疾患医療センター 岩戸清香医師
休憩(11:45～13:00) 健康チェック/相談コーナー/情報コーナー
第二部(13:00～14:30) パネルディスカッション「認知症にやさしい街づくり」
～調布市在住当事者の声から考える～
問合せ・申込み 青木病院認知症疾患医療センター042-483-1399(平日9時～17時)

認知症サポート月間作品展
「創作の子カラ」
～ひとつひとつの物語～

日時 9/9(月)～9/12(木) 10:00～16:30
場所 文化会館たづくり北ギャラリー

認知症当事者の作品を展示します。
ワークショップでの創作体験や認知症に関する地域の情報の紹介も実施します。
※9/9は13:00開始、9/12は13:00終了

● 問合せ
各地域包括支援センター
または調布市役所高齢者支援室
☎042-481-7150

● 認知症サポート月間サイト
調布市ホームページ
「認知症サポート月間」で検索
<https://www.city.chofu.tokyo.jp>

講座

調布市ナースの会主催
「からた」で遊んで、認知症を学ぼう！
日時：9/8(日) 14:00～15:30
会場：たづくり1001、1002会議室
※・調布市高齢者支援室 042-481-7150

市内在勤・介護医療機関向け講演会
認知症発症の治療とケア
日時：9/11(水) 13:30～15:00
会場：調布市医師会館、web
※・調布市高齢者支援室 042-481-7150

地域包括支援センター
多機能型介護サービス
日時：9/18(水) 10:00～正午
会場：たづくり大会議場
※・調布市高齢者支援室 042-481-7150

音楽レクリエーション健康講座
笑って楽しく認知症・介護予防
日時：9/26(木) 14:00～15:30
会場：青木病院別棟
※・調布市高齢者支援室 042-483-1399

認知症サポーター養成講座
日時：9/30(月) 14:00～16:00
会場：あくろすホール
※・調布市高齢者支援室 042-481-7150

認知症カフェ(通年開催)
認知症カフェとは、認知症の本人やご家族が、身近な場所と地域の方と交流できる場のことです。必要に応じ医療・福祉の専門職に相談したりできます。9月に実施する認知症カフェの情報は調布市ホームページに掲載しています。

市内各所で
オレンジガーデニング
プロジェクト実施中
認知症啓発のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育て、「認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで創っていきましょう」という思いを共有するプロジェクトを市内各所で実施しています。

今年度より 認知症ブックフェアを開催します
市内の書店・中央図書館にて認知症に関連する書籍のフェアを行います。
期間：9月1日(日)～9月30日(月)

協力書店一覧

- 真光書店(布田1-36-8 真光書店ビルB1F)
- くまざわ書店 調布店(布田4丁目4-22 トリイ京王調布A館4F)
- 啓文堂書店 仙川店(仙川町1丁目43-1 京王仙川駅ビル2階)
- 啓文堂書店 つつじヶ丘店(西つつじヶ丘3-35-1 京王リトナードつつじヶ丘2階)

図書館

- 調布市立中央図書館

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○調布市認知症サポート月間の取り組み

① 認知症シンポジウム



基調講演



専門職による相談コーナー



トークセッション 12

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○調布市認知症サポート月間の取り組み

②認知症サポート月間作品展 「創作のチカラ」～ひとつひとつの物語～



シンボル作品



展示作品



ワークショップ

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○調布市認知症サポート月間の取り組み

③ 各種講座



講座「認知症とお口の健康」



調布ナースの会主催
「かるた」で遊んで、認知症を学ぼう！

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○調布市認知症サポート月間の取り組み

④ オレンジガーデニングプロジェクト



(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

○調布市認知症サポート月間の取り組み

⑤ 認知症ブックフェア



第9期計画における「認知症施策の推進」の位置付け

重点施策

(1) 介護予防の取組

(2) 医療と介護の連携強化

(3) 認知症施策の推進

(4) ケアラー（介護者）支援

(5) 住環境の整備



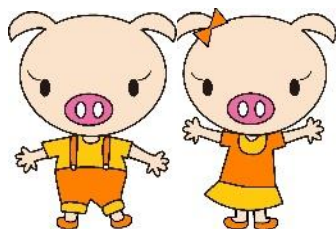
第9期の取組

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

(2) 早期の支援・相談

(3) 認知症当事者の意見・意思に基づくまちづくりの推進

(4) 地域で支える仕組みづくり



(2) 早期の支援・相談

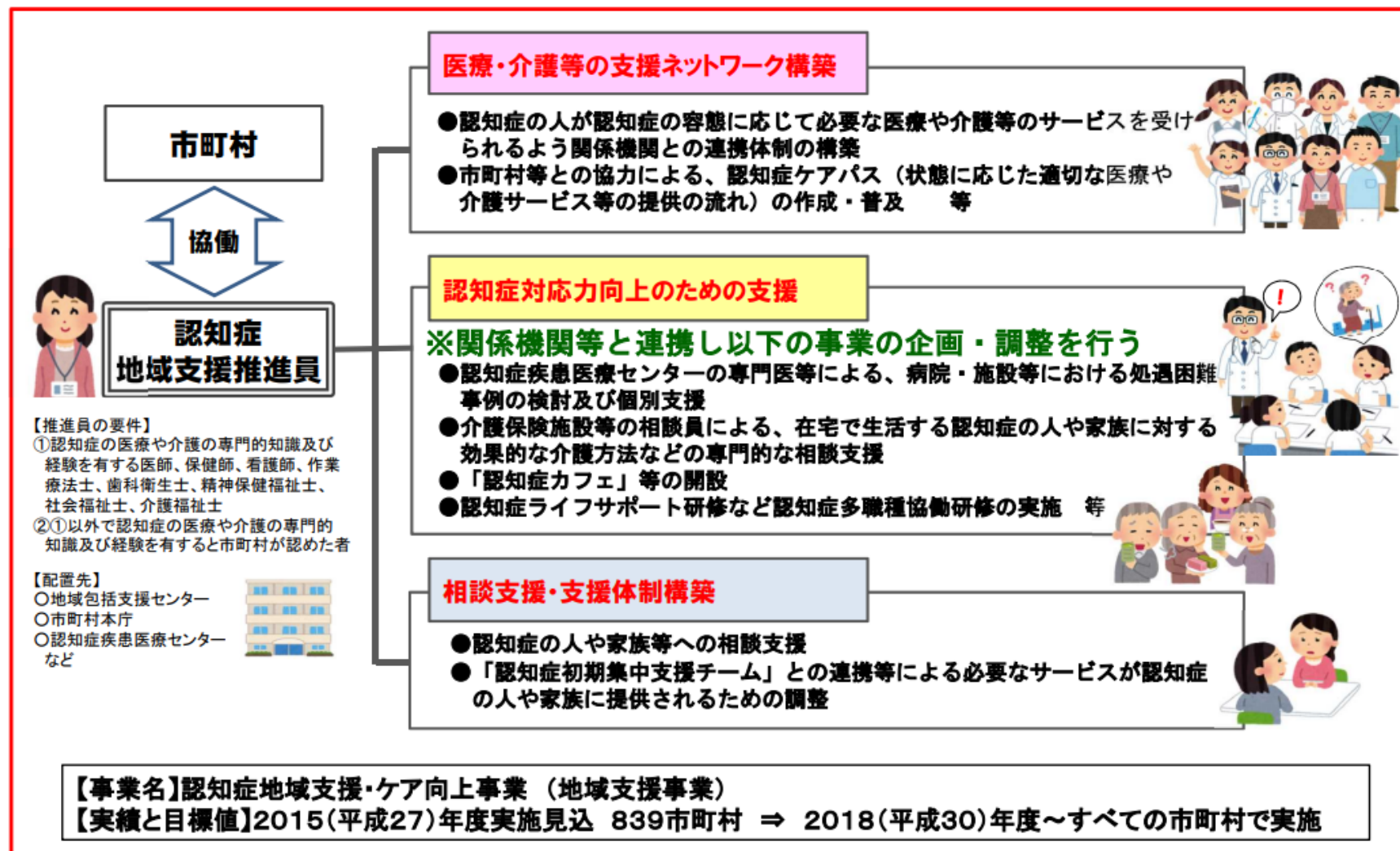
○認知症当事者・家族等が孤立しないよう、認知症や若年性認知症に係る相談窓口の周知、認知症ガイドブックを活用した普及啓発、認知症地域支援推進員を中心とした相談・支援を推進

高齢者総合計画における指標	令和4年度	令和5年度	目標値
認知症相談窓口の認知度 (%)	23.7%	—	35%

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より抜粋
(調査対象：市内8圏域から600人ずつ、計4,800人の65歳以上の市民)

(2) 早期の支援・相談

認知症地域支援推進員



(2) 早期の支援・相談

MCI: 軽度認知障害。同じ年代の人と比べて認知機能が低下しているが、日常生活を基本的に正常に送ることができる状態。

○令和6年度もの忘れ予防検診

50～79歳の希望者を対象に、市内の協力医療機関にて認知機能検査(長谷川式スケール, MMSE)を実施。

【受診券郵送対象者】

73・74歳の方全数

過去に検診受診歴があり、MCIの診断が出ている方



(2) 早期の支援・相談

令和5年度
受診者数
(受診券郵送対象者:74・
76歳)

370件
(対象者数5,436人
受診率6.81%)

検査結果	該当者数	割合
疑いなし	311	84.1%
軽度認知機能障害 (MCI)	52	14.1%
認知機能障害	6	1.6%
個人情報同意なし	1	0.3%
合計	370	100%

MCI:軽度認知障害。同じ年代の人と比べて認知機能が低下しているが、日常生活を基本的に正常に送ることができる状態。

●MCI・認知機能障害の結果が出た受診者を対象にフォローアップを実施。介護保険サービスの利用や資源の紹介につなげている。

(2) 早期の支援・相談

○認知症疾患医療センター青木病院との連携 初期集中支援チーム

	支援対象者数
令和3年度	5
令和4年度	2
令和5年度	6

【認知症初期集中支援チーム】

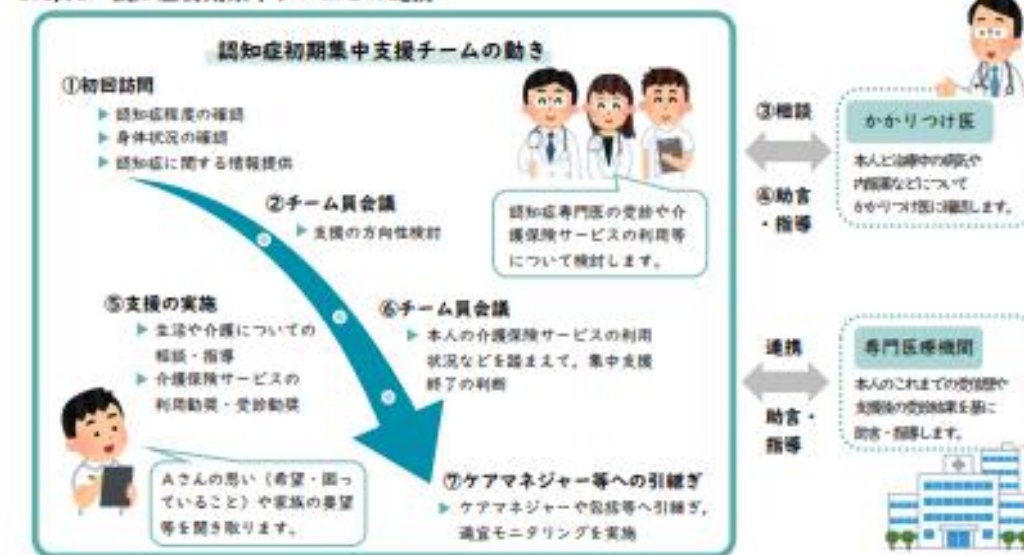
Step.1 相談・通報（周囲の気づき）



Step.2 実態把握・検討

- ▶ 地域包括支援センターが実態把握、支援の方向性を検討
- ▶ 支援対象者は、市を通じて認知症初期集中支援チームへ支援を依頼

Step.3 認知症初期集中チームとの連携



第9期計画における「認知症施策の推進」の位置付け

重点施策

(1) 介護予防の取組

(2) 医療と介護の連携強化

(3) 認知症施策の推進

(4) ケアラー（介護者）支援

(5) 住環境の整備



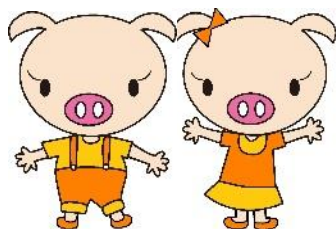
第9期の取組

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

(2) 早期の支援・相談

(3) 認知症当事者の意見・意思に基づくまちづくりの推進

(4) 地域で支える仕組みづくり



(3)認知症当事者の意見・意思に基づく まちづくりの推進

○認知症カフェ・だれでもカフェ

高齢者総合計画における指標	令和4年度	令和5年度	目標値
認知症カフェの実施 (箇所)	3か所	3か所	4か所
各福祉圏域1つ以上の ケアラー等を支えるグループ活動	15か所	15か所	19か所

第9期計画における「認知症施策の推進」の位置付け

重点施策

(1) 介護予防の取組

(2) 医療と介護の連携強化

(3) 認知症施策の推進

(4) ケアラー（介護者）支援

(5) 住環境の整備



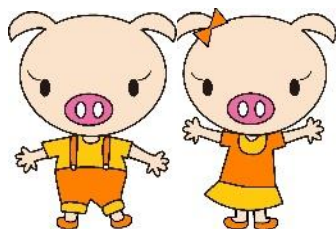
第9期の取組

(1) 認知症の正しい知識の普及啓発

(2) 早期の支援・相談

(3) 認知症当事者の意見・意思に基づく
まちづくりの推進

(4) 地域で支える仕組みづくり



(4)地域で支える仕組みづくり

○調布市版チームオレンジ

令和5年度にオレンジデイ仙川,しばさき彩ステーションが
チームオレンジに認定

	チーム数
令和5年度	2



(4)地域で支える仕組みづくり

○認知症徘徊高齢者探知システム セコム製GPS端末機器貸出

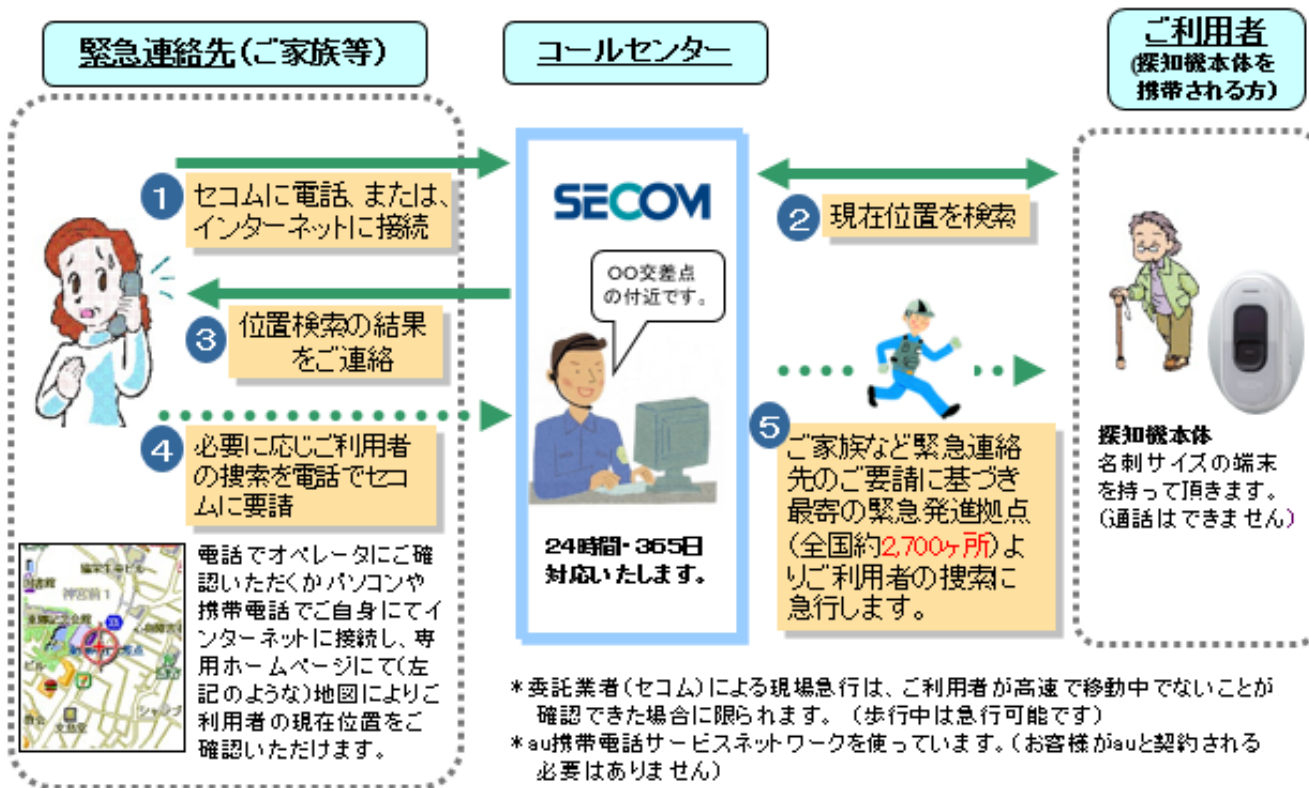


規格：縦84mm, 横46mm,
奥行16mm 重さ67g
連続動作時間：最大350時間
(充電2時間)
現場急行サービス：1万円/時
実費

サービスのしくみ：位置情報サービス＋現場急行サービス

24時間・365日いつでも大切な方がどこにいるか確認できます。
ご要請があれば委託業者(セコム)が急行します。

→ 位置情報サービス
→ 現場急行サービス



(4)地域で支える仕組みづくり

○認知症徘徊高齢者探知システム 利用実績

	R2	R3	R4	R5
利 用 者 数	48人	56人	63人	62人
新 規 利 用 者	18人	25人	23人	14人

インターネット	290件	1123件	1,441件	5,834件
オペレーター	2件	3件	13件	9件
現 場 急 行	0件	0件	0件	1件

(4)地域で支える仕組みづくり

○認知症徘徊高齢者探知システム

平成30年6-7月事業利用者へアンケートを実施
(21名:回収率56.8%)

一人暮らし4名, 高齢者のみ世帯7名, 同居世帯9名, その他1名



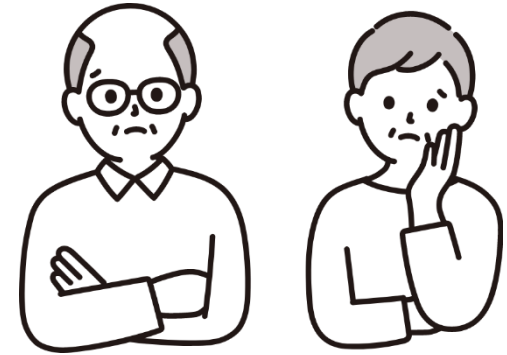
機械が大きい等のコメントはなかったが、「GPS付きの靴, 持ち物等に名札があるといい」が9-10名(30%)あった。

	市の貸与以外の手段			市の貸与 【ココセコム】			52,206人 (R6.4.1)	東京都調査 (H26)
	スマートフォンGPS					有料	国勢調査 (R2)	認知症が疑われる 人がいる世帯の状況
	充電	確認	保護	充電	確認	保護		
同居世帯	●	●	●	●	●	●		
高齢者世帯 (近くに子ども世帯あり)	●	●	●	●	●	●	8,838世帯 7.3%	30%
高齢者世帯 配偶者問題なし (遠方に子ども世帯あり)	●	●	●	●	●	●		
高齢者世帯 認知者 (遠方に子ども世帯あり)	○	○	×	×	○	○		
高齢者世帯 配偶者問題なし (子, 身元引受人なし)	●	●	●	●	●	●		
高齢者世帯 認知者 (子, 身元引受人なし)	×	×	×	×	×	×		
単身者 (身元引受人あり : 例・甥姪, 友人)	×	○	○	×	○	○	11,767世帯 9.7%	16%
単身者 (身元引受人なし)	×	×	×	×	×	×		
●: 利用・対応可, ○: 場合により可, ×: 不可								

(4)地域で支える仕組みづくり

○認知症徘徊高齢者探知システムの課題

- 身寄りのある方の場合
→GPS貸与が可能。
- 身寄り(緊急連絡先, 身元保証人)がない方の場合
→本事業だけではなく, 緊急通報システム, 人感センサー, 配食サービスも同様の課題がある。お金の支払い含め課題が多岐にわたる。



おおもとの課題はすぐ解決できないかもしれないが…ひとまず,

- GPSが使えないなら, 行方不明になったときに早く見つけてもらえる仕組みが欲しい。
- QRコードシール, キーホルダーなど, 普及しやすいものを検討したい。

(4)地域で支える仕組みづくり

○声掛け訓練



ゆうあい福祉公社主催
認知症サポーターステップアップ講座



地域包括支援センターちょうふ花園主催
地域見守り訓練